

第6回広島市 平和記念式典 児童派遣事業

問い合わせ
総務課庶務・ふるさと納税担当



平和記念式典に 参加しました

戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に伝えていくことを目的に、市内6つの小学校代表の6人が平和記念式典に参加しました。

子どもたちは、8月5日に広島市の平和記念公園を訪れました。原爆の子の像に市内の小学6年生が平和を願って折った千羽鶴を捧げ、亡くなられた方のご冥福を祈りました。広島平和記念資料館では被爆者の遺品や写真を見学し、人々の命を奪う戦争は絶対あってはならないことや平和の尊さを実感しました。

翌6日は平和記念式典に参加しました。式典には世界120の国と地域の代表を含む、およそ5万5千人が参加し、原爆が投下された午前8時15分に黙とうを捧げました。続いて平和宣言、平和への誓いが行われ、恒久平和への思いを強く感じた式典でした。20日には参加報告会を開催し、2日間で体験したことや、平和の大切さを将来にわたり伝えていくことを発表しました。

平和記念式典

原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念するため、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑)前において、原爆死没者の遺族をはじめ、市民多数の参加のもと平和記念式典が挙行されています。式典の中で広島市長によって行われる平和宣言は、世界各国に送られています。

次第

- ①開式
- ②原爆死没者名簿奉納
- ③式辞
- ④献花
- ⑤黙とう
- ⑥平和宣言
- ⑦放鳩
- ⑧平和への誓い
- ⑨あいさつ
- ⑩ひろしま平和の歌(合唱)
- ⑪閉式



広島で私たちが感じた事

私が広島で一番心に残ったことは、広島平和記念資料館で最後に見たたくさんの人間の骸骨が並んで写っている写真です。私はその写真を見て一瞬体が震えました。こんなにも多くの大切な命がたった一発の原子爆弾で奪われてしまったんだと思うととても悲しい気持ちになりました。



高江琉妃さん(高萩小)

ぼくは広島で、原爆のこわさと平和の大切さを深く学びました。広島平和記念資料館では三輪車や人影の石、黒い雨の跡が残る白いかべ、焼け焦げた衣服や時計などを見て胸がしめつけられ、涙がこぼれそうになりました。記念式典では世界中から集まった人々の言葉や祈りを聞き、原爆は絶対にあってはならないと強く感じました。この経験を生かし、原爆のおそろしさや平和の大切さを伝えられる人になりたいです。



相澤良圭さん(武蔵台中)

僕が広島で一番心に残ったことは、全国平和サミットで聞いた被爆者の話や、「原子爆弾」という詩で、「原子爆弾が落ちると昼が夜になり、人はお化けになる」と書かれている所が印象的でした。他には、広島平和記念資料館で、はん点が出来た舌の模型や、黒い雨が付いているかべを見て、当時の人は放射線を浴びてもものすごく苦しい思いをしたのだと感じました。犠牲者の痛みを知り、その命を無駄にしないよう、平和な世界を創りたいです。



菅野大さん(高麗小中)

平和って尊くて大切だ。なのに、世界では戦争をする国があったり、核兵器を保持している国があるのは何故だろうと思いました。

広島には今もたくさんの戦争の傷跡が残されていて、本当に悲惨な出来事だと感じ、私は悲しくなりました。なので戦争をする



国の人たちにも広島を訪れて、平和の大切さを感じてほしいと思いました。私は式典に参加した1人としてこれから先たくさんの人たちに平和の尊さと大切さを伝えていきたいです。

河原心渚さん(高麗川小)

ぼくは広島をこの目で見てみたいとずっと思っていました。実際に広島に行って一番心に残ったのは、広島平和記念資料館です。被爆者の遺品一つ一つに説明があり、家族とのやり取りや被爆者の人生が書かれています。原爆は、家族との幸せな暮らしを壊し、



何十万人もの命を奪ったという悲しさや痛いほど伝わってきました。ぼくは広島で感じた全てを忘れずに学校の友達や周りの人に原爆の恐ろしさや平和についてしっかりと伝えていきます。

吉田凜汰郎さん(高萩北小)

広島を訪れて一番印象に残ったのは、広島平和記念資料館に展示されていた頭髪が抜けた姉弟の写真です。その写真から、原爆によって一瞬で亡くなった人だけでなく、長く苦しんだ人もいたことを知りました。その他の展示からも、被爆者や被爆者の家族がどれほどの悲しみを抱えたのかが伝わりました。



原子爆弾の威力とその影響をあらためて学び、私はこの出来事を風化させずに、周りの人にも伝えていきたいです。

鈴木瑞希さん(高根小中)